



最新のエビデンスに基づく 糖尿病・内分泌疾患治療の実践

当科では、糖尿病疾患診療として新たな知見をいち早く日常臨床に取り入れた、最新エビデンスに基づく糖尿病治療を実践し、患者さん中心のチーム医療(医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、検査技師、運動療法士)の推進をめざしている。また、内分泌疾患診療としては、各種検査や画像診断法を駆使し、病態の確実な診断と治療を実施している。

代表的診療対象疾患

I. 糖尿病疾患

糖尿病(1型、2型、その他の型、および妊娠糖尿病)、低血糖症(インスリノーマ等)、脂肪萎縮症など

II. 内分泌疾患

視床下部・下垂体疾患(先端巨大症、クッシング病、汎下垂体機能低下症、成人GH分泌不全症、尿崩症等)、甲状腺疾患(バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍等)、副甲状腺疾患(副甲状腺機能亢進症・低下症等)、副腎疾患(原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、副腎偶発腫瘍、アジソン病等)、骨粗しょう症、骨代謝疾患、性腺機能低下症、電解質代謝異常、脂質異常症(高脂血症)など

III. 栄養疾患

肥満症、消化吸収障害、消化器疾患術後等、各種疾病に対する栄養管理など

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

糖尿病・内分泌・栄養内科の外来診療では、糖尿病・栄養疾患については、医師、管理栄養士、および健康運動指導士により構成され、2〜3枠を設けた充実した栄養指導とともに、糖尿病などの代謝疾患に対する診療を行っている。

内分泌疾患については、中央検査部、病理部、放射線部との連携で、各種内分泌検査や甲状腺エコー・針生検、骨密度測定、CT、MRI、副腎シンチグラフィ等の検査診断を行っている。

入院診療体制と実績

糖尿病の入院診療では、複数の医師に加え、看護師、病棟専属の管理栄養士、病棟薬剤師および健康運動指導士によるチーム医療を実践している。特長は、糖尿病の病態・合併症の綿密な評価と個別性への考慮をあわせた密度の高いアセスメントとそれに基づく治療・療養方針にある。内分泌疾患に対しては、各種画像検査とともに内分泌学的負荷試験による正確な診断を行い、それに基づく治療を他科と協力して行っている。

高度先進医療の取り組み

膵島移植を再開

糖尿病・栄養内科診療において、膵島移植は2007年度より膵島単離酵素の問題のため、一時実施が中止されていた。しかし2013年度から再開され、再び実施が可能となった。これまでに移植を施行された患者さんについては、外来で、あるいは入院の上、継続した移植後評価を実施している。

